

令和3年度 宮崎県立日向工業高等学校 学校関係者評価

4段階評価	4:期待以上 2:やや期待を下回る	3:ほぼ期待通り 1:改善を要する
-------	----------------------	----------------------

重点目標について

1 人間力育成

(1)生徒指導体制の確立 (2)人権・道徳・特別支援教育の充実 (3)教育環境の整備

2 学力養成・キャリア教育

(1)教育課程の工夫・改善 (2)授業改善と学力養成 (3)キャリア教育の充実

3 安心・安全な学校づくり

(1)新しい生活様式を踏まえた学校生活の推進 (2)生涯にわたる健康の保持増進のための教育

(3)防災教育の推進

4 信頼される学校づくり

(1)広報活動の充実と学校公開 (2)危機管理の推進と適切な対応 (3)働きやすい職場環境づくり

教務 → 教務部

渉図 → 渉外図書部

生指 → 生徒指導部

教相 → 教育相談部

生指 → 生徒指導部

1年 → 1年学年会

保体 → 保健体育部

2年 → 2年学年会

環美 → 環境美化部

3年 → 3年学年会

1 人間力育成

(1) 生徒指導体制の確立 (2) 人権・道徳・特別支援教育の充実 (3) 教育環境の整備

〈令和3年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	教務	①全校（学年）朝礼の運用を通して、基本力の育成を図る。	コロナ禍で全てを実施することができなかったが、学年朝礼に変更するなどして実施した。集会時の聞く姿勢などの向上に貢献できた。	3	・生徒指導面の評価が良い。
		①「いつでもどこでも」の意識で生徒への声かけを行う。	学校全体で生徒指導に取り組むことができた。学校評価結果より職員の指導は、生徒、保護者ともに高い評価を受けている。	3	
	生指	②問題行動を起こさせない常時指導の徹底。問題行動発生を前年度より減少に取り組む。	問題行動は前年度よりやや増加した。取組として常時指導の強化、及び1年次当初のオリエンテーション、3年生進路決定後の指導強化策を考えたい。	2	
		③校内外において自転車の未施錠をなくし防犯意識を高める。そのため、校内での自転車施錠点検を不定期に実施し、施錠をする習慣化を図り、盗難防止モデル校を再返上する。	校内での自転車施錠率は、警察の抜き打ち施錠率検査(全4回)結果で判断すると管内高校でトップであった。	4	
		④服頭指導警告書(イエローカード)を活用した気付きの指導を行う。	昨年度と比較して減少傾向であり、気付き指導をクラス単位で行うことで生徒とのトラブルはなかった。今後もクラス間の指導の温度差をなくすため、統一指導を図る。	3	
		①生徒指導部、学年団と連携し「常時指導」徹底に努める。	時間の励行、清掃活動の充実、あいさつ、返事はほぼ達成できている。	3	
	進路	②学校行事の中で、基本力の育成に務める。	基礎学力テストや就職問題集の購入などにより、基礎学力の向上を図った	3	
		保体	①毎朝の健康観察の徹底を図り、生徒の健康状態の把握に努める。	全職員の協力のもと、健康状態の把握と迅速な対応に努めることができた。	
	環美	①清掃の始まりと終わりの挨拶を行う。	清掃時間に問題行動が発生した。挨拶を行うことで指示が行き届き、極端に遅れて行く生徒も少なくなると思う。今後も清掃は授業同様であることを訴えていきたい。	1	
		②清掃時の移動時間を5分以内とする。	始まりと終わりの挨拶が定着しつつあり、引き続き取り組む。清掃の集合・生徒の動きは、監督職員の意識によることが多い。我々職員が清掃活動の意識を高める必要がある。	3	
		③すべてのゴミ持ち帰りの指導をする。	持ち帰る意識はあるが、管理ができていないため多少のゴミが出る。自分のゴミはバッグの中にしなすよう指導する。	2	
		④積極的な校内ゴミ拾いを行い、ゴミが落ちていない状態にする。	校内は良いが、校外のポイ捨てが目立つので、ゴミの管理・清掃活動を行う。	3	
		⑤菓子類の持ち込み禁止の指導をする。(ガムの吐き捨て防止)	館やガムの包み紙・菓子パン袋・コンビニのレジ袋が目立つので、不要なものの持ち込み禁止を呼びかける。	2	
		⑥美化委員による学期一回の校外ゴミ拾いを行う。	毎期末考査最終日に美化委員会による校内外の清掃活動を行った。	3	
渉団	①公共の場である認識をさせる。ルールやマナーを提示し、生徒が自ら守られるように育てる。	図書館に来館する生徒は概しておとなしい。	2		
(1)	教相	①教育相談の充実	相談件数が増え、内容も複雑化する傾向にある。更に、複数名の生徒が長期間相談室を利用するといった想定外の状況もあり、職員も部員も不足して教相の負担は増している。来年度は担任団や学科の協力体制の強化を検討していく。	3	3
		②いじめ・悩みアンケート(年3回)の実施	学期毎にアンケート調査を行い事後対応もしっかり行っているが、2学期に県から別途調査依頼があり、内容が同じでも無記名でもう一度実施するよう指示を受けた。来年度はその調査があることを見越して計画したい。	3	
		③いじめ不登校対策委員会(各学期1回)	計画通り実施、対応できた。	3	
		④担任と連携した家庭訪問や面談の実施	生徒一人一人の状況が複雑なので対応や問題解決は難しいが、担任と連携して生徒や保護者に寄り添った対応ができていた。	3	
		⑤専門機関との連携	ケース会議への参加をひまわり支援学校のチーフコーディネーターに依頼するなど、連携した取組を行った。	3	
	1年	①集会時に学年団全員で指導することで、生徒に集会時のきまりを遵守させ、日向工業生としての基本を身に付けさせる。	学年が始まってすぐに集会指導をしっかりと行なったため、集会中の生徒の聴く姿勢はよかった。生徒アンケート「集会時の聴く姿勢」できた・ややできた98%。	4	
		②予定を生徒手帳に記入させることで、生徒に学校生活の見通しを持たせる。	入学当初は生徒手帳をメモ帳として使っていたが、次第に使う頻度が減ってしまった。生徒アンケート「生徒手帳」できた・ややできた59%。	3	
		③生徒に部活動の意義を伝えて入部を勧め、最終入部率80%以上を達成する。	部活動の現在までの加入率は79%である。部活動加入は進路に直結しているため、今後も加入を促していきたい。	3	
	2年	①服頭指導を通して服装を自ら整える意識を高める。また、様々な場面で互いに挨拶をし、言葉遣いに気をつける習慣を身につけさせる。	服頭指導においては、学年で統一した指導が徹底できた。日常の指導については、学年団全体で指導する体制で取り組めた。	3	
		②インターンシップや修学旅行など校外の活動においても、5分前行動を徹底させる。また、普段の授業等も予鈴の時に委員長による声かけを実施しベル着を徹底させる。	校外の学校行事については、時間厳守で取り組むことができたが、授業の予鈴での着席については、徹底までは至らなかった。	2	
		③先の見通しを持って行動させるため、副委員長の主導の下、生徒手帳へ記入させる。(活用率を70%以上にする。)	活用率については、多いクラスで70%。Google Classroomの活用等検討が必要である。	1	
		④自己肯定感を高めるために、SHRで30秒～1分間のスピーチに取り組ませる。(日直日誌、帰りのSHR進行など生徒が主体的に取り組める内容も検討する。)	感染状況により、10月から実施し、生徒が主体的に取り組めた。	2	
	3年	①服装指導、礼法指導を意識した朝夕のSHRの充実を図る。	個別に注意することはあったが、学年で統一した指導ができなかったため、クラスによってばらつきがあった。教員側の共通指導体制が必要である。	2	
②1分間スピーチの毎日実施と、日直日誌指導の充実とメモの習慣化を図る。		日誌はどのクラスも毎日つけることができ、朝の1分間スピーチも気になるニュースなど内容が充実していた。メモの習慣はなかなかできていなかったが、入社前の心がけて新入社員はメモを取る大切さを感想の中で書いていた。	3		
③学校行事や部活動において、生徒に役割を与え、挑戦させ、達成感を持たせる。		コロナ禍でいつも通りの活動ができない中、できる範囲で行事や部活動に取り組ませ、達成感を持たせることができた。役割が偏ることがあったので、もっと様々な生徒に活躍の機会を与えることと良い。	3		

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(2)	生指	①携帯電話の校内持ち込みに伴い、使用条件や問題発生時の対処法を周知徹底する。	校内で使用ルールが守れずに指導されるケースが相次いだ。また、職員の指導に温度差があり、統一指導をお願いした。	2	3	・携帯に関しては自己管理できるように指導を。
		②講演会の実施や関係機関との連携。	JR九州、警察機関との連携を図った。関係機関からの情報を基に生徒指導に役立てた。また、交通講話を警察に依頼して生徒のソーシャルスキル向上に努めた。	3		
		③生徒自ら活動内容の企画・準備を行わせることで、生徒の意欲向上を図る。	2年ぶりの交流で本校での直接交流は内容をリニューアルし、交流は相互理解の良ききっかけとなった。	4		
	進路	①教育相談部や関係部署と連携を図る。	就職試験における違反質問などの事前指導を行い、就職試験後の問題把握、対処を行った。	3		
	保体	①教育相談部と連携を図り、迅速かつ正確な生徒の情報を把握し支援を行う。	教育相談部や担任団を中心とした先生方と連携を図り、アンケートの活用などを通して、迅速で正確な情報を把握し、適切な支援を行った。	3		
		②中学校・支援学校等の関係機関と連携を図り、生徒理解・適切な支援に努める。				
		③特別支援教育、通級指導への支援を行う。				
	環美	①自分の命は自分で守ることを再認識させる。	日常的な防災教育（シラバス）と抜き打ちの訓練を継続的に行う。生徒指導部主体の「部活動単位の防災訓練」の実施ができたので良かった。	3		
		②共に助け合う気持ち（共助）を防災訓練に取り入れる。	訓練に共助の要素（車椅子）を取り入れる予定だったが、実施できなかった。	2		
		③本校所有の救助・共助用車椅子を数台確保する。	職員同士の救助訓練として、本校所有の車椅子を使用し、共助訓練を行う予定であったが、実施できなかった。	2		
	渉団	①資料や書籍を積極的にそろえ、命の教育週間（7月第1週）世界人権デー（12.10）や国際障害者デー（12.3）などに合わせて展示コーナーを設ける。	積極的にできなかった。	2		
	教相	①人権教育の実施（年3回）	計画通り実施、対応できた。来年度も教育相談部内で内容の充実を図り取り組んでいく。	3		
		②特別支援教育推進委員会（通級に関する校内委員会）の充実	計画通り実施、対応できた。	3		
		③行動観察（1年）の実施	計画通り実施、対応できた。	3		
		④「ライフスキル（生徒理解・自己肯定感を育むための取組）」を1学年で実施する。	計画通り実施、対応できた。	3		
	1年	①夏休みまでに家庭訪問を行い、家庭状況を把握して、家庭と連携した指導を行なう。	各クラスとも早期に家庭訪問を行った。訪問できない家庭には連絡を入れた。また、何かあったときはこまめに家庭に連絡した。	4		
②コーディネーターの授業参観や家庭訪問・面談をもとに、教育相談部と連携して通級指導へ向けた説明や準備など、生徒一人一人に応じた指導を行う。		教育相談部と相談して不登校生徒等への対応を行った。また、生徒に応じた指導を心がけた。生徒アンケート「生徒に応じた指導」できた・やれた97%。	4			
2年	①一人一人に応じた指導を行うために、教育相談部と連携をはかり、必要に応じて拡大学年会を行う。学年会の記録を副担にも共有し、多方面から声かけができる体制を作る。	学年会で、教育相談部と生徒の情報共有が徹底できた。また、学年会の議事録は、ミライムを活用して副担任と共有できた。	3			
3年	①言葉遣いに気をつけ、相手を嘲笑、威嚇、攻撃するような言動は慎むよう指導する。	生徒の言動を注視し、気づいたらすぐに指導を心掛けたが、なかなか生徒に言葉で本質を伝えることができず、悪ふざけを制止することができなかった。	2			
	②生徒の言動や表情に常にアンテナを張り、心配な生徒は、担任、教育相談につなぐ。	4. 5月に子ども同士のコミュニケーションがうまくいかず、進路変更をする生徒がいた。その後は、各先生方と日頃から情報交換をし、生徒の変化に比較的早く対応できた。	3			
(3)	教務	①ICT環境の整備を図る。	タブレット端末、タブレットPCを導入。授業での使用できるよう説明会を実施。	3	3	・部活動の結果等から評価しました。
	生指	①クラブ活動・教育振興基金の有効活用を提案する。	ほぼ偏りなく予算執行中。今年度はPTAより要望がありクラブ活動・教育振興基金の有効活用について事務長を中心に計画、執行していただいた。	3		
		②部活動生集会と未加入生集会を定期的に実施する。	各学期終業日に実施。生徒の体験談等も取り入れ主体的な取組へ移行していきたい。部活動加入率80.3%（1年85%、2年90%、3年79%）。	3		
		③各部の部員数確保のため、学校規模に応じた部活動数を検討し、令和4年度にかけて精選していく。	現在、全部活動に在籍部員がおり活動中で精選検討まで至っていない。また、現在全職員が部活動顧問として配置中である。	1		
	進路	①進路指導室及び進路資料室の整備に努める。	資料の整理がされている。	3		
		②ICTを活用した企業説明会・会議などの環境整備と活用。	PCの導入し、オンライン設備の向上を図った。業者が準備をしていたので、準備に問題なかったが、機器を操作する上でトラブルがあったので職員で対応した。今年度のオンライン会議回数を記録し、来年度に生かしていく。	4		
		③キャリアパスポートを活用し充実させる。	キャリアパスポートを各学年に配布、学期ごとに記録を行ってもらった。	3		
	保体	①環境衛生検査を適切に実施し改善を図る。	日常点検や衛生委員会でのアンケートを通して、改善等が必要な場所の把握、準備を行った。	3		
		②定期的な安全点検を実施する。				
	環美	①事務との連携を密にし、設備・用具の整備充実を図る。	消耗品、清掃用具の在庫を確認し、必要に応じて準備した。	3		
		②学期毎に美化委員による清掃用具の点検を行う。	清掃場所ごとにアンケートを取り、清掃しやすい環境を整えることができた。	3		
		③花壇を中心に花と緑に囲まれた潤いのある学習環境の整備に努める。	年2回の植え替えを実施した。	3		
		④徹底したゴミの分別に努める。	ゴミの量が例年少なくなっている。今後も持ち帰り指導を徹底したい。	3		
		⑤全生徒・職員プラゴミの持ち帰りを行う。	クラスにより差があるように感じる。また、校外でのマナーが悪いので、モラルを身に付けさせる必要がある。	2		
	渉団	①定期的に図書館に多読の生徒を掲示し、読書の啓発を行うとともに、年間多読賞の表彰を行い、表彰されることで自信を持てるようにする。	読書量が少ない。	1		
		②蔵書点検を実施する。	実施した。	4		
③レファレンスの充実を図る。		体制は整えたが利用が少ない。PRが必要である。	3			
教相	①教室前面の掲示物削減など特別支援教育の視点からの学習環境改善を行う。	計画通り実施、対応できた。	3			
1年	①教室前方に掲示物を置かず、生徒が授業に集中しやすい環境を作る。	各クラスとも前方に掲示物は置かず、時計も後ろに置くなど、生徒が授業に集中できる環境を作ることができた。	4			
2年	①学びの場としての教室の環境を整えるために、アクセシブルデザインを意識した教室内の整備を徹底する。	各クラス、アクセシブルデザインを意識して取り組めた。M2では、コルクボードを活用し、掲示物を移動できるように配慮されていた。	3			
3年	①日々の清掃の徹底をうながし、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を身に付けさせる。	清掃への取り組みには温度差があったが、自ら積極的に清掃に取り組む生徒も見られるようになった。清掃を面倒くさがる生徒への指導の在り方を考える必要がある。問題行動があったので、始まりと終わりの挨拶を徹底させた。	1			
	②ICT関連機器（教室設置の用具・機器）の準備片付けを積極的に行うよう指導をする。	ICT関連の機器準備片付けを生徒が行うように呼びかけをしたが、授業によっては徹底はされなかった。	2			

2 学力養成・キャリア教育

(1) 教育課程の工夫・改善 (2) 授業改善と学力養成 (3) キャリア教育の充実

〈令和3年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由				
(1)	教務	①新学習指導要領の実施を踏まえ、教科・学科と連携し、本校生徒の実態に即した教育課程の編成に努める。	通級指導を社会技術基礎という科目で2・3年生は選択科目へ「替える」形で導入することができた。教科・学科のご協力のもと、令和4年度入学生へシラバスについては、観点別評価も加えて作成することができた。	3	3	・100%進路達成は素晴らしい。			
		②3年生課外など普通教科と協力して取り組みを充実する。	朝課外等は、プリントを準備して頂いたおかげで取り組むことができた。取り組み状況については担任団でやり直しなどチェック体制を強化する必要がある。なお、進路に、国語や数学の先生が配置されておらず、小論文や就職試験で分からない部分がある際には、生徒自らが教科担任に教えてもらっている状況があったので、普通教科の先生方で進路対策をするのは負担が大きいと感じた。	3					
	進路	③業者テストなどを利用し、学力を確認し学力保証の基礎資料にする。	テストは滞りなく実施できたが、毎年同じ問題なので、業者に内容の検討を依頼した。	—					
		④生徒の就職希望者内定を年内100%達成する。	求人数も1300社を超え、ほぼ達成できている。	3					
		⑤県内就職率を70%以上にする。	県内就職率は78%	4					
		⑥企業及び大学・専門学校等との連携に努める。	コロナ禍で、なかなか来校するのが難しい状況であったが、進路部員全員で対応はできた。	3					
	環美	①防災教育は特別なことではなく、日常的に防災教育を行う。 (シラバスに防災教育に関する内容を明記する。)	防災バッグ(非常時持ち出し袋)を各学科に配備した。来年度、持ち出し訓練を取り入れる。 各教科のシラバスに防災に関する内容を記載してもらい、日常的な防災教育を各教科毎に行った。	2 3					
		②生徒・職員に対する予告なしの「緊急地震速報を活用した防災避難訓練」を行う。	実施予定ではあったが、3密のリスクがあったため実施しなかった。	2					
		教相	①「通級による指導」を教育課程内実施の可能性について検討を行う。	計画通り実施、対応できた。来年度からは教育課程内に入れて選択科目として実施予定。			3		
	1年	①国語科と連携して漢字検定の対策を毎週行い、生徒に基礎的な語彙力を身につけさせるとともに、学習習慣の改善を図り、検定合格率50%以上を達成する。	漢字検定についてはまだ結果が出ていない。漢字検定の取り組みについては、学年の先生方のご協力のもと確実に実施することができた。一方で、生徒が自ら取り組み姿勢を育成することは十分にはできなかった。生徒アンケート「漢字検定」できた・やできた68%。	3					
		2年	①資格課外と部活動の報告連絡相談を確実に進行。	掲示板等で連絡調整がしっかりできた。			3		
		3年	①少人数ならではの授業を工夫し、生徒の学習に対する意欲を高める。	授業でICTを積極的に活用し、生徒のICT活用場面も増やすことができた。また板書時間等の省略により、その時間を巡視に使うことで生徒間の活動を活性化できた。			3		
	(2)	教務	①各教科の意向を組んだ時間割の編成を行う。	ハード面の充実に伴い、機器の活用とG suite Educationの研修を実施した。来年度更に研修を充実させていく。			2	3	・評価コメントより、工夫していると感じます。
			②新学習指導要領の実施を踏まえ、学習評価の円滑な実施の方法を図る。	会議が6限まで入れ込むことができなかった。校務分掌の配置や基礎コマを考慮すると会議については曜日を設定して7限目設定することも考えなければならない現状がある。			2		
③公開授業の取組を見直し、より有効な取組の確立を目指す。			令和4年度に向けてしっかりと準備ができた。	3					
④ICTの活用を促進し、職員の意識・技術を高める。			掲示板を活用し、ICTの活用についても繋げることができた。期間や参観方法などについては、改善が必要である。	3					
⑤新教育課程の変更点をしっかりと理解し、適正な教科書の選定を行う。			マニュアルを作成し、研修や日々の活動において、活用を促した。	3					
生指		①始業前の挨拶を徹底することで、授業と休憩時間のメリハリをつける。	始業前挨拶はどのクラスでも習慣づいており、目標を達成できた。	3					
進路		①生徒の個性・能力等を十分に理解し、保護者や担任との連携を密にして、きめ細かな進路指導を推進する。	学科・学年・進路指導部が一体となり取り組むことができた。今後定着できるかどうかカギでもある。	3					
		②個人及び三者面談の充実と、各学科と連携した面接指導の実施。	学科と担任団を中心に面談、面接指導も充実させることができた。	3					
		③生徒及び家庭への進路情報の伝達と担任との連携を図る。	3年生に対しては、必要に応じて情報提供できたが、1、2年生に対して、進路通信などを出す工夫をすらすらに良くなる。	3					
		④満足度調査で、本校を選んだ満足度を80%以上を維持する。	大変良かった38%、どちらかと言えば良かった42%を合わせて満足度80%を維持できた。	3					
渉団		①ブラックボードによる広報や生徒との会話等を通じて、状況に応じた本の購入及び紹介に取り組み、貸し出し数の10%増を目指す。	館内の広報はしっかりできたが、具体的に数値の伸びはない	2					
教相		①全職員による授業のアクセシブルデザイン化の取組とまとめを行う。	計画通り実施、対応できた。	3					
1年		①数学科と連携し、学び直しを実施する。	数学科の先生方がしっかり学び直しを実施してくださった。一方で、学年からのアプローチが足りなかったと感じている。	3					
		②基礎力診断テストを通して、自己肯定感を育むため、GTZのDゾーンの生徒数を減少させる。	自己肯定感を高めるトレーニングを実施できれば授業の集中力等も向上できたのではないかと考えている。	3					
2年	①授業に真剣に取り組ませるために、授業研究に力を入れ、生徒が興味を持って取り組める授業内容を工夫する。	ICTを活用した授業研究など授業改善に取り組むことができたが、生徒の学ぶ意識を高揚させることが課題である。	2						
3年	①各学科、教科と連携を図り、授業を受ける姿勢を改善させる。	授業への遅刻、忘れ物、居眠り、私語、無気力など授業中に改善すべき点が多く見られた。授業担当者にもよるので、授業内容や教育技法を研究する必要がある。実習への取り組みは比較的良かった。	2						
	①朝自習を継続的にを行い、基礎力向上につなげ、必要に応じ個別指導を行う。	就職試験前は、担任団で協力して計画的に朝自習の課題を準備し、取り組ませることができた。試験後の朝自習の在り方はもう少し改善し、有意義な時間にすべきである。	3						

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(3)	教務	①選択科目説明会を通して、早期の進路目標設定を図る。	コロナ禍での日程変更もあったが、選択科目説明会を実施し、選択科目決定についての面談の機会を作ることで進路目標の設定には貢献できた。	3	・コロナ禍で大変な中、学校行事など対応しているの。
	生指	①各種委員会活動の充実と責任感を身に付けさせるために、できるだけ3年間同じ委員を務めさせる。	2年生45%、3年生39%が同じ委員を務める結果になった。活動の充実等については対策が必要である。	2	
		②1人年1回以上のボランティアに参加させることで、自己存在感を意識させる。	コロナ禍でボランティア案件が少ないことに加え、校内での参加者数も以前に比べ格段に減っている。ボランティアの重要性を伝えていく必要がある。	1	
	進路	①就職エリアコーディネーターと連携した地元企業への就職開拓の実施。	コロナの影響でICTを活用した説明会が一部あったが、生徒の進路の参考になった。学校のことや受験対策、金銭面について質問をすることができていた。	4	
		②就職・進学・公務員等の説明会や集会の充実を図る。	就職試験時の違反質問などの対応ができた。	3	
		③日向・延岡のハローワークとの連携。	インターンシップ、企業説明会、職員対象企業見学等はなんとか実施でき成果はあったが、4校合同説明会は延期になった。	4	
		④各機関と連携したキャリア教育の企画・実施。	多くの先生方にご協力をいただき、事故等なく実施できた。	4	
		⑤インターンシップの企画及び実施。	保護者も対象とすることで家庭における進路の話し合いができる機会が増えると思われる。	3	
		⑥企業説明会の企画及び実施。	県主導の「高校生安全・防災研修」にズームで参加し、他校と交流することで刺激になった。	3	
	環美	①災害ボランティア・地域清掃活動を推進する。	各教科のシラバスによって、学習することが自他の命を守ることにつながることを今後も継続して認識させる必要がある。	3	
		②日常の学習が自他の命を守ることにつながることを認識させる。	進路コーナーを更に充実させるため、進路指導部や学年との連携を密にし、随時進路資料の収集に努める。	3	
	渉園	①進路コーナーを更に充実させるため、進路指導部や学年との連携を密にし、随時進路資料の収集に努める。	進路コーナーを設定した。	3	
	教相	①外部機関と連携し特性を踏まえた進路指導と支援	生徒の進路先と連携し、必要な引継等を行った。	3	
	1年	①企業・現場見学会等に参加する際に、事前事後の指導を充実させ、生徒が主体的に職業観・勤労観を構築できるようにする。	企業・現場見学会の前にLHR等で事前指導を行うことができた。一方で、LHRの時間が限られており、行いたい指導を十分できたかは疑問である。生徒アンケート「事前指導」できた・やできた96%。	3	
		①課題研究(総合的な探求の時間)における進路研究の充実を図り、外部講師による授業、インターンシップなどを通して職業観を持たせ、2月には進路希望を明確にさせる。	課題研究において進路研究を実施した。外部講師による講演もzoomを活用して実施することができた。進路希望の決定については、2月中を目指し、各クラスで指導している。	3	
	3年	①手洗い、マスク着用の徹底を日頃から促し、行事においても主体的に感染対策をする力を育成する。	毎朝学年団で呼びかけを行うことができた。授業中や休憩時などもマスクの着用を指導できた。	3	
		②学校行事における生徒の動きを把握し、感染リスク想定などを行うよう心がける。	今年度も思うように学校行事が行われない場面も多かった。感染状況に応じて計画を切り替え、できる範囲で対応できた。	3	

3 安心・安全な学校作り信頼される学校づくり (1) 新しい生活様式を踏まえた学校生活の推進
 (2) 生涯にわたる健康の保持増進のための教育 (3) 防災教育の推進

(令和3年度)

目標	努力事項(評価指標)	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由				
(1)	教務	①新型コロナウイルス感染症対策を講じながら臨機応変に学校行事の企画運営を行う。	先生方のご協力のもと、臨機応変に運営することができた。	3	3	・よくできていると判断しました。			
		②新型コロナウイルス感染症対策等の最新情報の収集を行い修学旅行関係の適切な対応を図る。	学年団と連携し、時期・内容を変更して実施することができた。	3					
	生指	①連休・長期休業・宅習期間前に生徒心得を発行し、校内外での新しい生活様式に関する内容も取り入れクラス指導指導にて周知徹底する。	今年度、生徒心得発行3回、集会時の生徒指導部講話9回を通じてコロナ感染防止対策、マスク着用等を周知徹底できた。	3					
	進路	①新型コロナウイルス感染症との最新情報の収集と的確な対応。	関係機関、部署との連携を図り対応できた。	4					
	保体	①最新情報収集を行い、迅速に的確な対応を行う。	迅速に正確な情報提供に努めることができた。	3					
		②ほけんだより等を通じて、健康管理に関する情報を発信し、生徒一人ひとりの健康に関する意識の向上や3密を避ける生活の習慣化に努める。	さまざまな機会を通して注意喚起を行うことで、意識付けと習慣化につなげることができた。						
	環美	①衛生上有効な消耗品を常備する。(ゴム手袋、使い捨て手袋等々)	庭掃除やトイレ掃除等に有効的に活用できた。	3					
		①PTA総会への出席率75%以上を目指す。また、PTAの各専門部会の活性化を図る。(PTA新聞の写真を充実させるなど)	書面決議であったが、目標は達成した。	4					
			②PTAの組織を学校に規模に応じたものにすると共に、生徒に直接関係しない活動の内容精選を継続する。	コロナ禍でできないことが多すぎた。			2		
				③コロナ禍においても可能なPTA活動内容を考案する。			PTAバザーは状況に応じた内容と規模になった。	3	
	④同窓会活動の活性化に協力する。		コロナ禍で停滞した状況を打開すべく働きかけた。	3					
	1年	①生徒の登校時の手洗いやマスク着用の指導を徹底して行う。	登校時のマスク着用や朝の健康チェックは徹底して指導を行った。手洗いについては、はじめは徹底されていたが朝が寒くなるにつれる生徒が減ってきた。これからも指導を徹底していきたい。生徒アンケート「手洗い・マスク」できた・ややできた97%。	3					
①一人ひとりの基本的感染対策を徹底させる。			登校時の手洗い・消毒等の感染対策については、学年団で取り組むことができ、徹底することができた。	3					
3年			①手洗い、マスク着用の徹底を日頃から促し、行事においても主体的に感染対策をする力を育成する。	毎朝学年団で呼びかけを行うことができた。授業中や休憩時などもマスクの着用を指導できた。	3				
	②学校行事における生徒の動きを把握し、感染リスク想定などを行うよう心がける。	今年度も思うように学校行事が行われない場面も多かった。感染状況に応じて計画を切り替え、できる範囲で対応できた。	3						
(2)	生指	①喫煙・飲酒等による特別指導事案が出た際、保健体育部と連携し再発防止教育を実施する。	保健室の本を読ませ考えさせ、各先生方からの講話の中で生徒の気づきを促させた。現在、喫煙・飲酒等で特別指導生徒が再指導ケースはない。	3	3	・工夫されている。			
	進路	②新型コロナウイルスや変異ウイルスに対応した行事、会議等の計画。	感染対策をとりながら実施できた。	4					
	保体	①救急法講習会・薬物乱用防止教育等の健康講話を実施する。	コロナ禍で配慮を必要とした健康診断や学校行事であったが、無事に実施することができた。次年度は、救急法講習会などの体験実習も工夫を行いながら実施したい。	3					
		②健康診断・事後措置の徹底を図る。							
		③健康相談の実施(水泳前・体育大会前・修学旅行前・長距離走前)							
	環美	①花壇や植木を中心とした緑化を進める。	門川高校から苗を購入し、5月と12月に植え替えを行い、庭掃除を中心に1年通して除草・水やり等の管理ができたと思う。	2					
	渉団	①図書選定委員会を中心に予算の執行状態の確認や、予算の執行を行う。	ミライム上での確認作業を行ってきた。	3					
	1年	①遠足やクラスマッチなどの行事を通して、生徒の健康的な心身を育む。	アンケートの結果にもあるとおり、生徒は各行事を楽しみ、心身の健康を育むことができたと考えている。アンケート「行事」できた・ややできた98%。	4					
	2年	①日ごろから全教職員で生徒の健康課題等を把握するとともに、情報交換や研修に努めるなど、組織的な機能を発揮できるよう、指導体制を整える。	学年間の情報交換を密に行うことができた。生涯にわたる健康の保持増進のための教育についての研修は実施できなかった。	2					
	3年	①健康診断や健康・安全に関する統一LHR等の内容を踏まえ、各クラスでのフィードバックを適宜行う。	統一LHRで特別何か取り組むことはなかったが、コロナ感染症対策を毎日呼びかけ、互いに協力し、健康・安全に対する意識を高めることができた。	2					
	(3)	生指	①各部で避難方法の確認と訓練を年1回以上行う。特に校外で活動を行う機会が多い部については避難場所を確認しておく。	夏休みに全部活動実施予定がコロナ第5波により11月中に全部活動で実施完了。今後は、違う場面を想定するなど今年度反省点を次年度へ繋げる。			3	3	・やれる事を工夫し行っている。
		進路	①進路指導の中で災害時の対応の仕方を教える。	学年集会などを行い未然防止を行った。			4		
保健		①緊急時の連絡体制を整備し外部機関との連携を図る。	危機管理マニュアルのリニューアルし配布するなど、緊急時に備えて改めて確認や整備を行った。	3					
		②AEDや担架等の点検を行う。							
		③ほけんだより等を通じて、災害時の備えや感染症予防等の健康管理に関する情報提供を行う。							
		④防災に関する備品を見直し、必要な物を確保する。							
環美		①自然災害の現状、原因、減災等について理解を深める。	今後の訓練や日常の防災教育で継続して行う必要がある。また、「地震・津波を想定した防災訓練」を実施できなかったため、防災通信を発行し、防災教育の必要性を訴えた。	2					
		②自らの安全を確保するための行動ができるようにする。	学校安全、防災教育の重要性を訓練を通して認識させた。	3					
		③学校、家庭、地域社会の安全活動に参画・協力し、貢献できるようにする。	防災教育に終わりも結果もないため、今後も実態に即した訓練を継続的に行っていく。	3					
渉団		①自然災害等の資料・写真集等を積極的にそろえ、震災の日(3.11など)に合わせて展示コーナーを設ける。	3.11にむけて準備中。	-					
教相		①災害時、緊急時の心のケア体制を整える(アンケート等)。	計画通り実施、対応できた。	3					
1年		①避難訓練を通して、避難経路を確認させ、防災への意識を高める。	避難訓練の際には生徒は真剣に取り組んでいた。更に防災意識を高めるのが今後の課題である。アンケート「避難訓練」できた・よくできた100%。	4					
2年	①実践的な自己判断の育成を図るため、年2回の防災訓練に真剣に取り組む。	1回の実施であったが、防災訓練に真剣に取り組むことができた。	3						
3年	①非常時を想定した避難訓練への積極的な参加を促し、自ら判断し行動する力を育成する。	コロナの感染状況悪化のため、なかなか避難訓練を実施することができなかった。災害についての文書配布や教科活動の中で、非常時の対応を考えさせた。	2						

4 信頼される学校づくり (1)広報活動の充実と学校公開 (2)危機管理の推進と適切な対応 (3)働きやすい環境づくり

(令和3年度)

目標	努力事項 (評価指標)	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(1)	教務	①関係部署と連携して、かわら版の工夫・改善を図る。	現在、5回発行済み 残り1回発行予定	3	3.2	・ホームページの更新頻度も適確で素晴らしいと思う。 ・努力されていると思います。
		②HPの更新、動画の掲載し広報活動の充実を図る。	HPにはコロナ関係連絡等も掲載し、体育大会や体験入学などの動画を掲載することで広報活動に努めた。	3		
		③正確な学校要覧を発行する。	管理職や教務のメンバーが大きく変わり、多忙な年度初めの時期に、滞りなく正確な学校要覧を発行することができた。	3		
		④体験入学において本校の魅力を中学生に伝えるべく、180名以上の参加者を集める。	各学科の体験者の反応は良かったが、参加者が144名で目標の80%にとどまった。	2		
		⑤中学校での高校説明会の工夫・改善を図る。	依頼のあった15校で高校説明会を実施し、体験入学の参加者数や志願者数の増加に務めたが、次年度も更なる改善を図りたい。	2		
	生指	①日向工業交通マナーアップ(年間職員立ち番)を実施し、地域から応援される学校を目指す。登下校時の挨拶・交通マナーの向上を図ることで、本校生のイメージを変える。	外部からマナーをご指摘いただいた。毎回注意すべき点をまとめ、情報としてクラスに掲示した。粘り強い指導が功を奏し、年度後半12月から外部からの指摘もなく、お礼の電話が数件入る様になった。	2		
		②学校HP・安心メールを活用し、生徒会の行事や各部活動の活動を紹介する。	生徒指導部に関わる行事紹介を学校HPへ迅速に10回掲載できた。学校評価結果より、閲覧数と評価の向上を確認できた。	3		
	進路	①校内・教室掲示板的活用など進路情報の積極的提供に努める。	通路や教室の掲示板的を有効活用することができた。	3		
		②全生徒と保護者に変化していく情報を伝え、進路意識の喚起を図る。	必要に応じて情報を集め伝えることができたが、進路意識を高めるための情報発信は十分に行えなかった。	4		
		③進路状況をホームページで発信する。	今年度の進路状況の更新を行った。	3		
	環美	①防災訓練を報道機関へ発信する。	本校の防災教育を広く発信するため、報道機関に投げかけ、数社の取材を受けた。	3		
	教相	①生徒の人権に配慮した面談等を行う。	計画通り実施、対応できた。	3		
	1年	①学年通信を副担任が輪番で毎学期2回以上発行し、学校や生徒の状況を発信する。	当初の計画取りに発行することができなかった。3学期に発行したい。	2		
	2年	①学年通信を副担任、学年所属の職員が輪番で学期2回発行し、学校や生徒の状況を発信する。	現在、1学期1回の発行のみである。3学期2回発行をした。	2		
	3年	①学年通信の定期的な発行を行う。(学期2回の発行予定)	通信発行が1学期のみにとどまった。計画は立てたものの、情報発信できなかった。	1		
(2)	教務	①文書・データ管理の徹底を図り、職員の意識を高める。	職員への声かけが不足していた。連絡会やミライン等を活用して行うべきだった。	1	3	・対応できていると思います。
	生指	①気付きシートの活用などで、生徒理解やいじめ防止に努める。	月1回の生徒状況報告書作成、いじめ不登校対策委員会等を通じて教育相談部と連携し情報共有はできた。次年度は、連携指導を模索していきたい。	2		
		②日向・延岡警察署生活安全課への定期訪問を実施し、地域における本校生の実態把握に努める。	警察署との連携を密に図った。	3		
	進路	①企業・大学等との情報のやり取りに努める。	就職試験では、大雨による電車遅延等が発生したが、生徒自らが企業に連絡し、学校に報告する指導を行っていたのでトラブルにはならなかった。	4		
		②トラブルを防止するため、関係機関との連携を強化する。	一部の学校で応募締め切りや、入学金の入金でトラブルがあった。インターネット上で申込みをするシステムに移行しているため、生徒や保護者が活用できない状況があった。合格後も職員による締め切りの把握をする必要がある。県内企業より卒業生に対するクレームトラブル相談があったが企業訪問等を行い対応した。	3		
	環美	①学校防災の在り方、防災訓練、防災に関する情報交換を行う。(必要に応じて学校防災連絡協議会を実施する。)	日向市防災推進課、消防本部、中村消防設備と防災訓練に関する情報交換と協力体制をつくることができた。	3		
		②各学科に常備した非常持ち袋・リュックを用いた訓練を実施する。	今年度の「地震・津波を想定した防災訓練」は中止で実施できなかったが、来年度の訓練で実施したい。	2		
		③各職員室・準備室に非常持ち出し袋を常備する。	まずは、学科職員室への配備ができた。	3		
	1年	①日向工業高校メールを有効に活用するために、加入率を100%にする。	先生方の丁寧な説明のおかげで、加入率100%であった。	4		
	2年	①日向工業高校メールを適切に活用するために、加入率を100%にする。	1名が未加入である。加入を勧めたい。	3		
	3年	①安心・安全な授業のために施設・設備の点検を適宜行うとともに安全管理について生徒への指導を行う。	施設設備を大切に使用することの大切さを常々伝えた。大きな破損などはなく、大きなケガをする生徒もいなかった。	3		
	(3)	生指	①生徒を指導する時間は、勤務時間内に開始・終了するよう計画し、実施する。	生徒の指導は勤務時間内で計画できるが、保護者召喚等は突発的に起こるため勤務時間内設定は難しく改善が必要。		
②特別指導の生徒については、生指部風紀係と副担任が協力して指導にあたる。			今年度、別室指導時の内規を改訂。各先生方からの講話や携わる機会が増え日誌の内容や態度も改善が見られ指導効果を確認できた。	3		
③時間外の立ち番指導や問題行動対応については無理がないよう十分に配慮する。			立ち番指導は、すべて勤務時間内に行った。問題行動対応は、時間外対応があったが管理職の御配慮で無理のない範囲で行えた。	3		
進路		①デジタル化により公務の効率化を図る。	進路指導部専用PCを購入したり求人票入力やアンケート調査などの効率化の改善を図った。	4		
保健		①役割分担を明確にし、分業による仕事の振り分けを行う。	各校務分掌と連携を図りながら、役割分担を明確にし、効率よく職務を遂行できるよう努めた。	3		
		②関係校務分掌と連携を図り、学校全体で共通理解を図りながら職務に努める。				
環美		①教科・学科の準備室や実習室等の整理整頓をサポートする。	要望に応じて清掃用具を準備できた。	3		
渉団		①時間外のPTA活動について、無理がないよう配慮する。	時間外業務(三役会)は少なかった。	3		
1年		①担任、副担任ABCの役割分担を徹底し、業務の分担を図る。	担任、副担任の役割が明確なため、ある程度の業務分担は行うことができた。今後はより互いに仕事を依頼しやすい環境を整えていくことが必要だと考えている。	3		
2年		①各行事、課研の資料のデータ化を図る。	各行事各行事の実施要項、計画等については、フォルダーに集約することができた。	3		
3年	①情報共有をし、仕事について相談しやすい環境作りに努める。	直接話をする機会を十分に確保せず、情報共有の遅れがあった。	2			